

氏名	瀬 尾 憲 司		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 706 号		
学位授与の日付	昭和50年 9 月 30 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)		
学位論文題目	尿中 Bilirubinoid に関する研究 第 1 編 結核患者尿中 Bilirubinoid に及ぼす抗結核剤の影響 第 2 編 糞便中 Mesobilirubinogen の性状と臨床的意義		
論文審査委員	教授 大 藤 真	教授 水 原 舜 爾	教授 平 木 潔

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Rifampicin を主体とする抗結核剤の腸内細菌叢に及ぼす影響を今井のカラムクロマトグラフ法により bilirubinoid を分画分離し分光化学的に検討した。その結果抗結核剤使用により糞便中には bilirubin より urobilin 体までの還元過程にみられる中間代謝物質の存在が証明された。このことから抗結核剤の腸内細菌叢への影響を実証することが出来た。

次に糞便中の mesobilirubinogen を塩化第二鉄により酸化し STOLL にならない薄層クロマトグラフ法にて glaucobilin と mesobiliviolin を分画分離し、glaucobilin については核磁気共鳴スペクトルと質量分析を行って IX α 型のほか異性体として III α 型、XIII α 型の存在を同定し、生体内で生成される bilirubinoid は IX α 型のほかの異性体も含まれることを確認した。なお、glaucobilin IX α の出現率と硫酸亜鉛混濁反応及び α -globulin との間にはよい相関関係が認められた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、尿中 Bilirubinoid についてクロマトグラフ法により研究したものであるが、従来余り確立していなかった抗結核剤の尿中 Bilirubinoid への影響及び尿中 Bilirubinoid の異性体について重要な知見をあげ得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格のあるものと認める。